

閑話

明けまして、おめでとうございます。卯年最初の閑話は、私ごとですが、ちょっと嬉しいお話です。

今年、我が家人と亭主には、大きな期待が一つあります。それは、家人のジストニアが治るのではないかと期待です。階段の下りで家人の右足がピョンピョン跳ねはじめたのは平成19年の秋。地元で出かけてジストニアの権威の先生にも診てもらいましたが診断は同じ

で、今以上に症状が進めば脳に電極を埋め込むことになると言われ、家人はすっかり怯えてしまいました。処方された「アーテン」という薬を大量に服用していますが、これはジストニアを治すのではなく

症状の進行を抑えるための薬で、家人の右足ピョンピョンは一向に治まりません。激しい口の濁きや物忘れなどの副作用に苦しみながら、転倒を恐れ、人の倍以上の時間をかけて、ゆっくりゆっくり階段を下りる家人の様子を見るのは辛いことでした。

ほとほと困っていたところ、昨年の女性鍼灸師フォーラムの取材

今年も受けます鍼治療

で、鍼治療と運動療法を併用する「ダイナミック鍼治療」でジストニアに対して顕著な治療成績を上げている関西医療大学の鈴木俊明教授と出会い、昨年から家人は鍼治療を受けはじめました。鍼治療はまだ5回受けただけですが、家人の右足はピョンピョンからピョンピョン程度にまで大人しくなり、なんと、調子のいい日は、ほとんど跳ねないようになったのです。わずか5回の治療でこれほどの効果が得られたのです。このまま鍼治療を続ければ、薬の副作用

から解放された家人がドドーンと階段を駆け下りる日も遠くはないでしょう。この正月も家人は、家の階段を下りるたびに「ほら、ちよつと、

見て、見て」と嬉しそうでした。そのたびに階段の下で待機させられるのは少々迷惑なのですが、何事にも疑い深い家人が、鍼治療の効果の素晴らしさに感激し、今では全幅の信頼を寄せています。業界紙編集者の亭主は、「どんなもんだ」と鼻高々です。

ウサギ年の今年も、家人の右足ピョンピョンが鍼治療で完治する年になるでしょう。そういえば家人は卯年です。いい年になりそうです。読者の皆様、本年もどうぞよろしくお願いたします。